

2020年4月13日

2019年度

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく  
中国5県における地域格差及び所得格差による課題を解決し、  
暮らし続けられる地域をつくる事業

## 不採択事業の情報公開について

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム  
(代表団体：NPO法人ひろしまNPOセンター)

2019年度「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく中国5県における地域格差及び所得格差による課題を解決し、暮らし続けられる地域をつくる事業の公募に申請いただいた事業のうち、採択に至らなかった事業について公表します。これは活動の原資が国民の資産であることに鑑み、「国民への説明責任」を果たすため、「情報公開の徹底」「本制度全体の透明性の確保」等が求められていることに応じるものです。

中国5県休眠預金等活用コンソーシアムでは、「休眠預金等交付金に係わる資金の活用に関する基本方針」に示されている「改善すべき点等を示すことにより、民間公益活動の潜在的な担い手の育成につながるように」との趣旨に則り、各事業への審査委員会からのアドバイス等を各団体に通知しました。加えて今回の申請を各団体の今後の活動につなげていただくために、通知内容に関する質問等についても真摯に対応していく考えです。

採択に至らなかった各事業の団体におかれましては、民間公益活動の担い手としての一層のご発展・活躍に向け、今回の申請がその一助となることを祈念いたします。

【お問い合わせ先】

NPO法人ひろしまNPOセンター（担当：松村）

TEL：082-511-3180

E-Mail：kyumin-chu5@npoc.or.jp

岡山県エリア

貧困や虐待の被害にある子どもたちの生活再建拠目的とする拠点整備

申請事業名 主題	DV 虐待被害者及び貧困ひとり親家庭の親子のための保護シェルター増設改修工事
申請事業名 副題	長期滞在可能な保護シェルターの実現
団体名	特定非営利活動法人オリーブの家
代表者名	理事長 山本 康世
解決すべき社会課題	<p>【領域】</p> <p>1) 子ども及び若者の支援に係る活動</p> <p>2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動</p> <p>【分野】</p> <p>① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援</p> <p>② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援</p> <p>⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援</p> <p>⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</p> <p>⑧ その他</p>
申請事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェルターの増設改修</li> <li>・依頼に対して早急な臨機応変なサポートが出来ること</li> <li>・民間団体や行政との連絡網がスムーズに進み相互支援が出来ること</li> <li>・スタッフの相談業務のスキルアップ</li> <li>・継続的な支援をするための体制づくり</li> <li>・家庭の都合で恐怖にさらされ我慢を強いられている子ども達の救助</li> </ul>
申請事業期間	資金提供契約締結日より2023年3月まで
申請助成額(円)	15,726,000 円
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会状況や課題の把握は行われており、課題解決のために DV 被害者やひとり親のためのシェルターを増設しようとする事業は妥当である。</li> <li>✓ これまで津山市(行政)や関連団体と連携して、本事業の対象となる家族をシェルターで保護してきた実績もある。</li> <li>✓ 対象者の心のケアに焦点をおいて活動してきたことも評価できる。</li> <li>✓ 活動テーマやこれまでの実績について、地域において大変重要な活動を民間シェルターとして展開されてきたことに深い敬意を表したい。</li> <li>✓ 活動をはじめた動機、活動内容、市ほか他機関との連携体制についても適切と思われる。</li> <li>✓ 国においても民間シェルターの活用・支援の必要性を打ち出していることを踏まえても、同法人の申請内容は高く評価したい。</li> <li>✓ 3つのエリア又岡山県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 設立間もない団体だが、着実に成長している。</li> <li>✓ 岡山県北での解決モデルが構築されると、インパクトは大きい。</li> <li>✓ テーマには合致している</li> <li>✓ これまでの活動実績を踏まえて、今回、休眠預金を活用した事業を申請した理由付けが少し弱く、今までの活動の事業が繰り返し記述され、活動の上塗りの感じを受ける。</li> <li>✓ すなわち、保護シェルターの必要性や意義は認めるが、寄付を受けた住宅をシェルターとして改築することによる、課題解決に向けた新たな展開が事業計画の中では見えにくい。</li> <li>✓ 長期滞在を可能とするシェルターを作るという事業は実行できるが、そのようなシェルターの充実で、課題解決にどれだけ寄与できるか、助成金終了後の活動の変化を想定することがやや難しい。</li> <li>✓ 設立間もないことから相談者が社会的に自立するまでのスキームの確立が急務だと感じます。相談件数だけでは、相談者をどのようにフォローし、課題解決するのか具体的な内容が見えない部分があります。</li> <li>✓ 貧困ひとり親家庭に対する支援、DV 虐待の保護等の社会的課題に対する想いは感じますが、事業内容が概要の記載が中心で全般的に抽象的です。</li> <li>✓ 資金計画が十分でなく 2020 年度も橋本財団助成金が 50 万円(昨年 110 万)から減額され、経営支援、組織基盤支援など運営基盤の確立が急務です。</li> <li>✓ 気になるのは、申請書にある相談事業の実施についての専門職の配置についてである。社会的に重要な活動であるだけに、安心して滞在・相談できる環境づくりを進めるため、文部科学省・厚生労働省が所管し、法律で定められた資格である「公認心理師」、または、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する「臨床心理士」のいずれかに、ケースごとに定期的な助言・指導を受けるような体制を整備されてはどうだろうか。</li> <li>✓ DV など虐待被害の深刻さを考えると、シェルターの増設は大切な社会課題と思う。被害を受けた対象者が安心して専門職のカウンセリングを受けることのできるハードソフトのバランスの取れた対応を求めたい。</li> <li>✓ 心理に関する資格は国が長年議論をしてきた背景がある。それまでは民間資格が主で、中には信頼性に欠ける資格もあったと感じている。シェルターは大変重要。支援を受ける方や支える方々に安心感を感じられる体制も必要ではないかと考える。</li> <li>✓ シェルターに職員等が常駐するわけではなく、何か問題が起こっただけの対応でケアができるのか懸念がある。</li> <li>✓ これまでの年度事業額はそこまで大きくなく、本事業に採択されると年</li> </ul>
--	--

	<p>間事業額が非常に大きくなることについて懸念がある。</p> <p>✓ シェルターに入った方が、どのように通常の生活に戻っていくのか、そのプロセスが見えない。資格者や弁護士などが関わっているのだろうと想像するが、そのことについての記載がない。</p> <p>✓ 相談者への支援プロセスについての記載が十分ではなく、これが資金計画の曖昧さにもつながっている。</p>
--	--

広島県エリア  
「ひと」「しごと」「地域資源」等の好循環モデル形成

申請事業名 主題	三段峡アウトドアミュージアム形成事業
申請事業名 副題	三段峡を体験と学びの場に 都市と田舎をつなぐ野外博物館構想
団体名	特定非営利活動法人三段峡-太田川流域研究会
代表者名	理事長 本宮 炎
解決すべき社会課題	<p><b>【領域】</b></p> <p>1) 子ども及び若者の支援に係る活動</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動</p> <p><b>【分野】</b></p> <p>③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援</p> <p>⑥ 地域の働く場づくりの支援</p> <p>⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</p>
申請事業の概要	<p>本制度の事業を実施する安芸太田町は人口減少率・高齢化率が県内ワースト1。県でもっとも小さな自治体です。森林面積が88%、急峻な山に囲まれ農地や工業用地の少ない当町では観光振興が町の存続に不可欠との認識で官民は一致しています。しかし、町内最大の自然観光資源「三段峡」には、総合的な観光戦略を策定・実行する機関がなく、また地域事業者や住民と「三段峡」をつなぐ窓口になる場もありません。そこで、私たちは本制度を活用し、来訪者の「情報収集→来峡→商品購入→リピーター化」のステップアップをデザインし、地域と「三段峡」をつなぐ入口を作ります。</p> <p>①「調査情報の整理および資料化事業」</p> <p>②「三段峡ツアー開発・販売事業」</p> <p>③「三段峡正面口における遊休施設の改修と活用」</p> <p>④「三段峡野外博物館広報事業」</p> <p>の4つの事業を実施し、シームレスに潜在顧客を「三段峡のファン」にするために取り組みます。また非営利組織が実施することで広く地域全体の利益に貢献できる体制の構築ができます。私たちは地方の消滅は里山の価値の減少に起因すると考えています。里山の新たな価値を「体</p>

	験と学びの野外博物館」として、都市や里山の人々へ提供します。
申請事業期間	資金提供契約締結日より2023年3月まで
申請助成額(円)	1,000 万円
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本団体は、三段峡憲章に基づいて結成された団体で、三段峡を野外博物館としようとする明確な目的がある。そのために、調査・研究を行い、小中学校と連携して伝える人材を育成しようとする、着実な活動を行っている点は評価でき、行政や町内の様々な関連団体との連携もできている。</li> <li>✓ 行政等の公的な補助金なしで、会費と寄付で運営している点は評価できます。</li> <li>✓ 同研究会は、町内外の関係機関と連携し、また、活動への多くの協力者・賛同者を得て地域に根付いた活動を展開してきた。また、事業計画がロジカルな活動理念、方針に基づいて立案されている。</li> <li>✓ 実際の活動は地道に三段峡を守る活動と、そこを交流の場にする活動であり、受け皿団体としてはしっかりしている印象がある。</li> <li>✓ 研究会のメンバーが地道に頑張っていることは承知している。</li> <li>✓ 非常にまじめな団体であると感じた。採択された場合には頑張るのだろうと思う。</li> <li>✓ システム構築に至る理念は十分に理解できるが、それを実現する人材が定着していくまでの事業が実際に構築されるかは不透明である。</li> <li>✓ 三段峡正面口の遊休施設の改修に大きな経費が充てられているが、本計画の実施ではこの情報発信の拠点がカギを握っており、人材としての地域おこし協力隊の受け入れがうまくいくかどうか課題である。</li> <li>✓ 観光協会の後を受けて組織された「一般社団法人地域商社あきおた」が連携団体とは書かれているが、同じ町内の類似団体とどのように共存していくのであろうか。</li> <li>✓ 地域の観光資源を活かすという発想は評価できますが、観光 PR・維持・管理には自治体との連携が不可欠と考えます。休眠預金を活用が人や地域の活性化の具体的なプロセスが不明です。</li> <li>✓ 本事業において注目した取り組みは、三段峡入口周辺の遊休施設を長期借用・改修による店舗運営である。同店舗においては、情報提供機能、ホスピタリティ機能、地域産品販売機能、アクティビティサービス機能の紹介・提供を行うプランが記されている。店舗運営事業(物販・ツアー・EC サイト)の目標とする年間売上を 1440 万円とされている。記載内容からは、地域内商品の仕入販売(店舗・EC サイト)や自主企画ツアーの販売(店頭・EC サイト)などが想定されていると推察する。また、様式 2・6の記載箇所には、本事業採択により、「ツアー販売件数の伸びが予測される」とある。しかし、事業モデルの詳細が明らかでないこと、予</li> </ul>

	<p>測を裏付ける FS 調査などのデータが確認できないことなどから、現段階での事業収益の蓋然性についてポジティブな判断を行うことができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実施にむけては目標とする年間売上の裏付けとなる FS 調査、ビジネスモデル検討が求められる。</li> <li>✓ 店舗経営においては、三段峡の魅力を背景として活用しつつも、小さな店舗の利用や購買行動にあっては、「店舗空間の魅力」「利用価値(購入商品・サービスの価値+時間消費価値)」「店舗スタッフの魅力」などが重要要因となる。プランでは、地域おこし協力隊員の配置を想定しており、町からも条件付きながら前向きな回答を得ていると判断できる記載があることから、こうしたビジネスモデルに資するスキルや経験を有する担い手の確保を進めることで、店舗経営の重要要因をデザインしていくことを期待したい。</li> <li>✓ 3つのエリア又広島県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしているといい難い。</li> <li>✓ 資料内容が大構えでかなり壮大だという印象。</li> <li>✓ いままでは公益的な活動が多かったが、店舗空間を整備して売り上げていくという事業だと理解している。しかし収益の数字はあるが、何をもってその売り上げが伸びるのか、という点などが曖昧で、この資料からは収益性について読み取ることができない。</li> <li>✓ 人の配置が重要だが、人材として記載のある地域おこし協力隊についてもあいまいな記述になっている。</li> <li>✓ どのように事業を継続していくのか、行政のかかわりがどのくらい見込められるのかが不明。休眠預金を使って店舗を整備して、それが収益に結びつくのか疑問がある。アンケートなど色々な取組が書いてあるが、それらは直ちに観光客等を誘致できるものではないと考える。</li> <li>✓ 三段峡の価値が高まっている中でおもしろいと思ったが、申請書が壮大すぎて読み取れない。もっと小さく産んで育てていく書き方であれば伝わったのかもしれないと思った。</li> <li>✓ 団体そのものについては好感を持てるが、事業内容をもっと具体的なものにしてから再度チャレンジしていただきたい。</li> <li>✓ 三段峡や自分たちの価値を伝える PR の部分について、行政との連携などがあるとよかった。</li> </ul>
--	--

申請事業名 主題	荒廃した梨園の再生と体験農園開設および後継者育成に向けた経営体制の構築
申請事業名 副題	
団体名	特定非営利活動法人元気むらさくぎ

代表者名	理事長 熊本 孝司
解決すべき社会課題	<p>【領域】</p> <p>1) 子ども及び若者の支援に係る活動</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動</p> <p>【分野】</p> <p>⑥ 地域の働く場づくりの支援</p>
申請事業の概要	<p>地域(三次市作木町)を元気にするために生まれた組織であるNPO法人元気むらさきが、地域名産である「作木梨」の生産をしている(株)高丸農園の梨園を再生させて、将来の就農者の獲得および地域活力の向上に向けた取り組みを行う。具体的には、雪害に合い荒廃した梨園を再生するために「梨の木の新植、梨棚の設置工事」を行い経営面積の拡大、「体験交流施設」の開設にあわせて備品整備を行う。体験メニューは、梨を使ったジャムづくり、遊休農地を利用した野菜作りであり、そのために机、椅子、調理器具、農機具等を調達する。若手の就農希望者には、「元気むらさき」の職員として雇用しながら農業経験を積める場を提供することで、自立までをサポートしていく予定である。若手の就農者を自立した担い手に育成に繋げるために、まずは安定した梨園経営を実現させて、将来的には地域の農林畜産業の持続的な経営を担う体制を目指していく。このようなノウハウを活用した地域活性策仕組みが出来れば、作木町のみならず、後継者不在の地域、地域の特産があるにも関わらず、既存の農林事業の持続性に苦慮している地域のビジネスモデルにもして行きたいと考えている。</p>
申請事業期間	資金提供契約締結日より2023年3月まで
申請助成額(円)	1,000 万円
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 申請団体は、これまで行政の指定管理を受けて、多様な事業を行ってきている。</li> <li>✓ 本事業は、地域の名産の「作木梨」の梨園を再生して、若手の就農者を担い手に育成しようとする取り組みである。後継者のいない地域の特産物の生産をテコにした、地域に根差したビジネスモデルになることが評価できる。</li> <li>✓ 株式会社高丸農園は、もともと農事組合法人であったが、令和2年に、「作木梨」の維持のために自由度の高い株式会社に組織替えしている。地域の自治会連合会とも連携し、梨以外にも、林業、畜産業、花きなどの事業者と連携するさくぎ農林業振興連合会も立ち上げて、活動の地域的広がりを考慮しているところに特徴がある。</li> <li>✓ 指定管理事業が主とは思いが、事業規模が年間1億5千万円を超えている点はほかの団体と大きく異なる財務状況と考える。</li> <li>✓ 一昨年、「三次市ががんばる地域・産業施設の整備支援事業」を活用して</li> </ul>

	<p>観光交流体験農場開設事業に取り組んでおり、ハード面の整備はすすめられているが、本申請事業においても施設改修に経費が主に使われることになり、行政の支援とのすみわけがつけにくい。施設改修以外の人件費等の経費は、法人自体の活動資金によると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域経済循環を創り出すという観点から単一の梨園の整備から広がりが限定的と考えます。</li> <li>✓ 関連する複数団体の資金計画等が不明です。</li> <li>✓ 支出計画が梨園整備のみで、当団体のその他の活動が不明です。</li> <li>✓ 目標数値をみると、事業費の投入による梨等の産品売り上げや施設利用者数など、収益に通じる目標設定はあいまいな記述となっている。一方、設備購入や梨園整備などについては明確な数値目標が設定されている。以上を踏まえると、事業により団体所有財が充実する一方、これを活用した取り組みとその活動により地域にもたらされる社会経済効果についての設計が十分ではないと感じる。</li> <li>✓ 同団体が地域を支える雇用の場となっている点は理解できるが、本プランに限ると公益性の観点が弱いという印象である。</li> <li>✓ 3つのエリア又広島県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしているといい難い。</li> <li>✓ 申請内容が、別法人(株式会社)の農園整備等になっている。助成金もすべて事業費として農園整備等に充てられている。元気むらさきぎと株式会社の関係性を見ると、役員等を兼ねていると思われる。NPO 単独の申請であれば利益相反にあたるため休眠預金事業としては採択することができない。</li> <li>✓ 助成金の使い道についても、人件費や管理費などを一切取っておらず、全額が農園整備にあたっている。助成金以外の予算を人件費や事業費等にあて、助成金部分で農園整備を行うという理解はできるが、申請用紙にはその旨が記載されていない。</li> <li>✓ そのため、事業計画と資金計画が結びつかないため適切な審査が難しい。</li> <li>✓ 本事業内容については、申請団体と別法人(株式会社)のコンソーシアムによる申請が適切であると考えます。</li> </ul>
--	--

申請事業名 主題	中山間地域チャレンジ事業者支援事業
申請事業名 副題	
団体名	一般財団法人神石高原地域創造チャレンジ基金
代表者名	代表理事 上山 実
解決すべき社会課題	<p>【領域】</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面して</p>



	<p>いる地域の支援に係る活動</p> <p>【分野】</p> <p>⑥ 地域の働く場づくりの支援</p>
申請事業の概要	<p>中山間地域の課題先進地域として、高齢化率 46%の広島県神石高原町でビジネスチャレンジ事業者に対して、「資金的支援」と経営的な指導を伴走支援で提供する「経営的支援」(非資金的支援)を組み合わせることで、評価を得ている神石高原チャレンジ基金のノウハウを継続・拡大していくことが中山間地域における地方創生に有効な手立てとなるのではないかと考えております。</p> <p>また、チャレンジ基金は、寄付、ふるさと納税など、中山間地域の課題解決への想いのこもった資金の受け皿となっていることもあり、休眠預金を含めた多様な資金の受け皿ともなっていければと考えています。</p>
申請事業期間	資金提供契約締結日より2023年3月まで
申請助成額(円)	1,000 万円
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 伴走的な事業支援という考え方は、中山間地域の活動支援のありかたとして大いに賛同するものである。</li> <li>✓ 申請団体は、ビジネスにチャレンジしようとする対象に資金的支援を行うことが主たる活動で、支援した団体の経営的な指導を行う伴奏型支援を行うことを目的としているとあるが、地域課題の解決は、基金の支援を受けたビジネス団体による間接的な事業となり、休眠預金を活用した事業としては少し距離がある。</li> <li>✓ ビジネスチャレンジ事業者に対する資金支援の原資となることが想定されますが、その他団体からの助成金と一体となって運用した場合、趣旨に沿ったものとなるかトレースが困難です。</li> <li>✓ 現時点で資金計画が人件費以外にどのように使うか不明です。</li> <li>✓ 本プランは、事業助成金を地域内事業者に再分配する内容となっており、本事業の2重構造化に通じるように思う。プラン内容を否定するものではないが、本事業の趣旨とは合致しないと感じた。再分配ではない、本来の意味での伴走支援での活動を期待したい。</li> <li>✓ 3つのエリア又広島県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしているといい難い。</li> <li>✓ 助成金の使い道が自団体を実施する助成(投資)事業の支援となっており、これは休眠預金の仕組みを4層構造にするものと考えられる(指定活用団体→資金分配団体→実行団体(資金分配団体的役割)→実行団体)。実行団体の役割として、資金分配団体的な役割は想定しておらず、4層構造は認められない。</li> </ul>

申請事業名 主題	持続可能なまちづくり: 地域資源を活用するフェアトラベルによる地域創生へ
----------	--------------------------------------

	の道
申請事業名 副題	関係人口から定住まで、スムーズに到達できる好循環モデルづくり
団体名	特定非営利活動法人フェアトラベルジャパン
代表者名	代表理事 高斗煥
解決すべき社会課題	<p>【領域】</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動</p> <p>【分野】</p> <p>③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援</p> <p>⑥ 地域の働く場づくりの支援</p>
申請事業の概要	<p>本事業は休眠預金等交付金、特に広島エリアのテーマである、「人・仕事・地域資源等の好循環モデル形成」に合わせて、1)日本や外国の青年が気軽に泊まれる地域の宿泊場所を拠点として、町民インタビューなど神石地域の観光資源を発掘する作業に参加させることで、2)地域の関係人口を増やしていくことができる、3)また、その魅力を探す作業(インタビューなど)をしながら、自然に地域の仕事情報や、地域で起業に必要な情報・町民からのメンタリングができることで、地域への定住まで到達する好循環モデルを作ることができることを実施の意義として、過疎地域の課題を解決することを目標としている。</p>
申請事業期間	資金提供契約締結日より2022年6月まで
申請助成額(円)	1,000万円
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 多くの旅行者を神石高原町へ誘致している点は、評価します。</li> <li>✓ フェアトラベルを日本の過疎地域で展開する取り組みは、持続可能な社会づくりに資するという点、さらにその先進性において重要な活動と思う。</li> <li>✓ 2018年に、神石高原地域創造チャレンジ基金の1000万円の支援を受け、空き家を改修したゲストハウスを神石高原町で運営する事業を行っていると思われるが、申請書類には、チャレンジ基金との連携という記載があるのみで、活動の拠点となっているはずのゲストハウスの記載が見当たらない。</li> <li>✓ 神石探しチャレンジャーの宿泊場所は、一泊1000円で民泊など自炊生活をする場所とされているが、事業費の大半が、神石探しチャレンジャー宿舎およびイベントとして借りる会場費となっており、具体的にどのような場所を借りるのか、ゲストハウスの事なのか不明である。</li> <li>✓ 持続可能な発展という広い概念は共感できますが、地域の課題解決にどのように関連するか不明な点が多いと考えます。今後、具体的な施策を期待します。</li> <li>✓ 1年目に50名のチャレンジャーが町を訪問・滞在する計画となってい</li> </ul>

	<p>るが、町に関わってほしい層の設定、当該層へのリーチ手法および訴求する地域特性や取材先、ステイ先の人の魅力を組み合わせたコンテンツ化、地域のキーパーソンなど、取材対象やステイに協力してもらう受入側との連携などの具体的なデザインが不足していると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大都市圏からローカルへの関心を有する層を対象とする移住・関係人口創出の地域からの取り組みは激しい競争状態にあり、新規参入する上では、フェアトラベルを学ぶという視点に特化し、事業設計を精緻に行う必要があると思う。</li> <li>✓ ブラッシュアップされた過疎地域におけるフェアトラベルの今後の展開に期待したい。</li> <li>✓ 3つのエリア又広島県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしているといい難い。</li> <li>✓ 神石高原地域創造チャレンジ基金より融資を受けており、その資金との住み分けなどについてが判断できないため、その返済に休眠預金をあてているように見られる危険性がある。</li> <li>✓ 2018年に神石高原地域創造チャレンジ基金より受けた融資をもって、どのような成果が生まれたのかは申請書からは読み取れない。まずはチャレンジ基金の事業を成功させ、そのステップアップに休眠預金をあててほしい。</li> <li>✓ 活動計算書などを見ても、実際の活動が読み取れない。</li> <li>✓ 団体が実施している、あるいは実施しようとしていることが申請書から読み取れない。フェアトラベルなど理念については理解できるので、取り組みを適切に伝えられるよう頑張っていたきたい。</li> </ul>
--	---